
デスレス
DEATHLESS
8巻
六道神士
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS



DEATHLESS
六道神士
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS

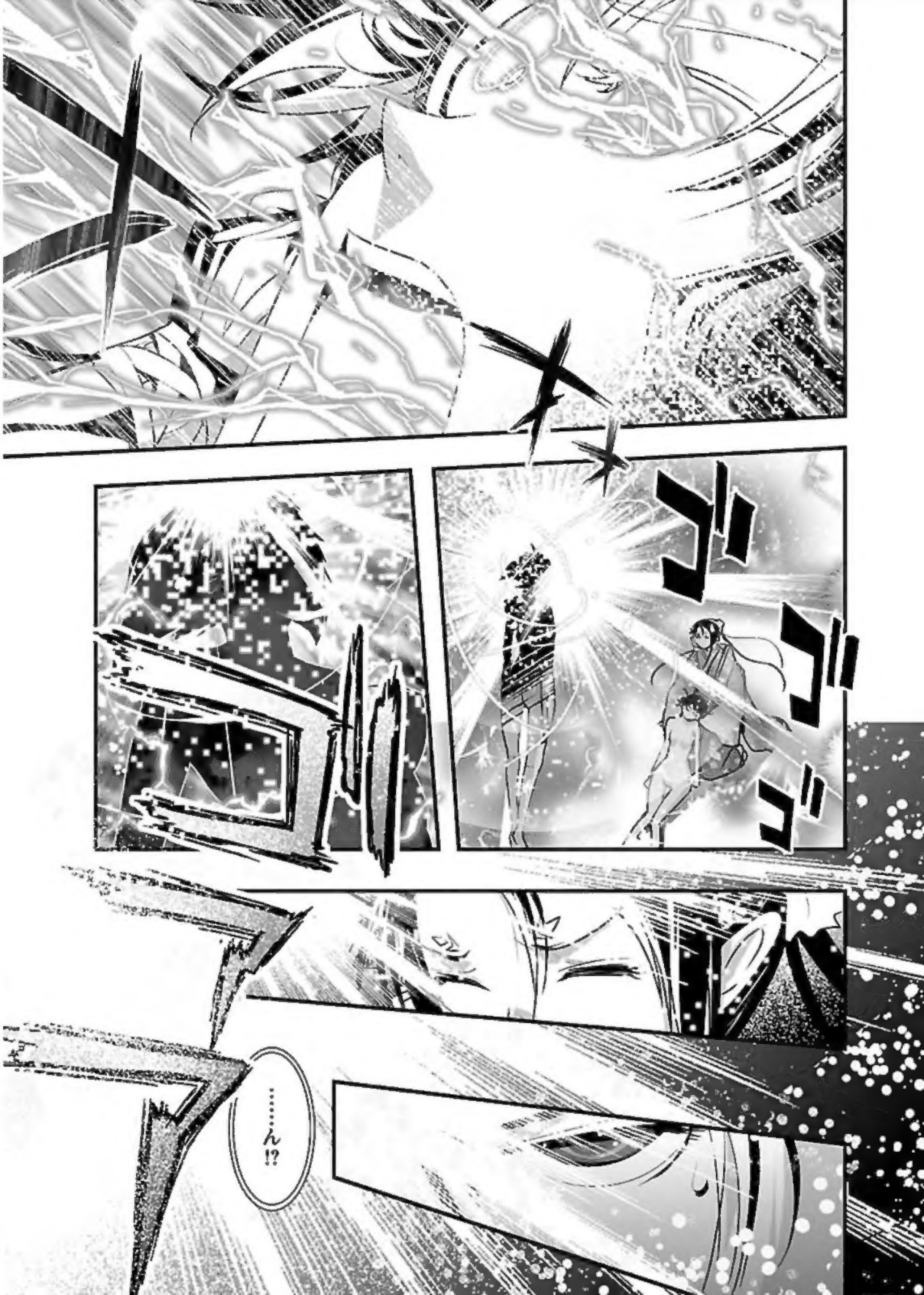


ブォン
ズズズズ
バチ
バチ
バチ
ミズキ！どうした！
……なにが起こっとるんじゃ！


第55話 さかのぼるひとたち




カ!!
あ…


ゴゴゴ
……ん!?


むぅ？
ぬぉ いつのまに！
スザク だいじょうぶ？
なにを しておる ミズキ殿！
マズったー
ごめん
ちょっと どうなるか わかんないから…
あと よろしくね


ちょっと待てい！
…これは…われらの知っていることではない…！
？
ヤツの意識が…見えておるのか？


ミズキ殿が…
やつの意識を辿っておるのか……
これは…

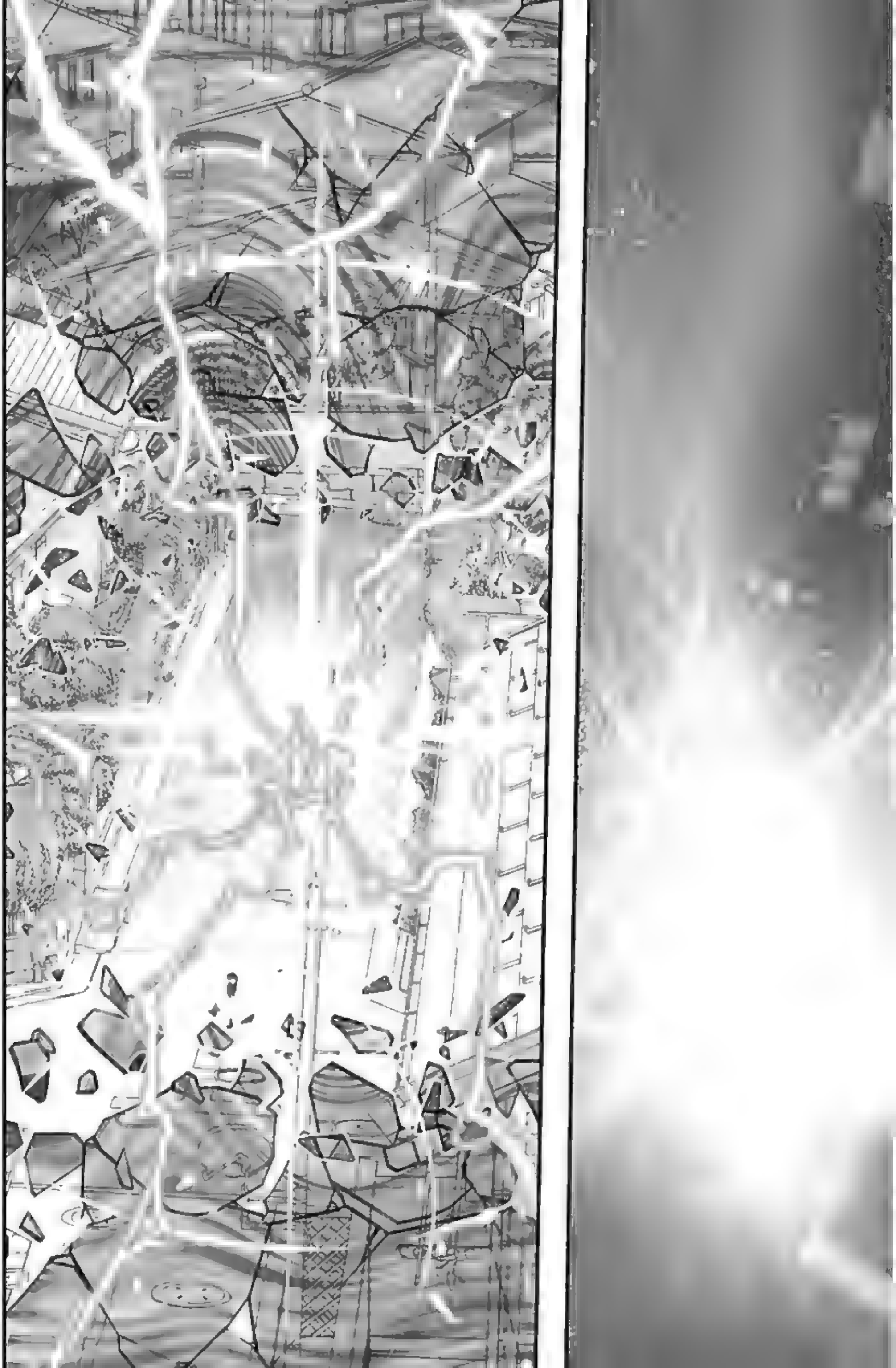

なるほどの
「不二」とやらは こうして…
毒餌に 仕立てられたと いうわけか…
つまり…
あれが
「敵」…


ズ
……ん?
ズ
ズ
な…
ズ
この「敵」をさらに遡って調べておるのかデタラメだの…
こやつは…
ズ


…!!
あやつら…
「羅睺の番衆」とかいう!…
そうか…あやつらか!


そうか!
そういうことか!
やつらは罠の種類を変えたのだ
吾の良人で駄目ならば
今度はフクウの相方というわけか!


くおッ




う…
終わったか…？
って…
な…




スッ
ハァ
ア…
チョイ
チョイ…


ど…
どういう…
ふんっ
スポテ
なんなのだこれは!
どうなっとるんじゃ!
なにがなんやら
ス…スザクかっ?
ムサシ殿!く…わっ
バタ
ヨロ…
ミズキにもどった!?
う…羽が!!


フンフン
?
ポロ…
キューーッ
キューーッ
キュッ
キュッ
おおい
待て待て！
ヤヤ♪
ヤ〜♪
とぶな とぶな
落ち着け
ミズキ殿！




ガッツ
アァ
ン
コテン
グカ〜
——とまあ
こういった有様での
ムグ
いやぜんぜんわかんないね
ごはんつぶついてるよ


どういう有様なのさ
結局敵はどうなったんだい？
ワシもさっぱりでな
敵は…
当面の敵はいなくなった…
いや…
あれは敵ですらなかったのだ
餌だったのだ
エサ…
元のミズキ殿が消し飛ぶ直前に敵の記憶を辿って見せてくれた
やつらはまた手探りで「過去」から「未来」を変えてきおったようだ


あの「羅睺の番衆」とかいう連中か…
ハァ…
うむ
ヤツらは「時を喰う」のではなく「まるごと取り込む」というミズキ殿の能力に気付き
先日と同じに吾らの誰かと縁のあるものを利用した…
イヤラシい連中だね
不二を「毒入りの餌」に仕立てたのだ
そしてみごとに食いついちまったと…
毒というか…爆弾であったがの


……で スザクさんは なんともないのかい？
吾の本質への 影響は ほとんど無い…
ミズキ殿が 庇うたのでな
それで 結局どういう毒 だったんじゃ？
わからぬが… やはり「時」がらみの 仕掛けであろ
あの状態の ミズキ殿ですら 抵抗しきれな かったのだから おそらく 相当まずい 代物だったのだ
そして案の定 状況はなかなか 最悪だ
最悪ちゅう ほどでも…
ケガもないし… カマドさんに 「時」を喰って もらって元に 戻ればええんじゃ ないのか？
ムサシ殿…
この姿は 単に若返っておる わけではない



ん？
本質の変容に外側が引きずられ…平たく言えば…
ミズキ殿は精神ごと幼ないころに戻っておる…
まったくやってくれた…
おそらく昨晩までミズキ殿は最強の存在であった
物理的に寸刻みにしても殺すことなどできなかったろう
だがその最強で不死身の存在である今のミズキ殿にとって唯一――
一朝一夕に回復できぬもの――


「経験」と
「成長」を
吹き飛ばされたのだ



…最悪じゃ
ガクゥ
…やっと事態を
飲み込んだか
あの甘ったれの
引っ込み思案を
あそこまで
たたき直すのに
どれだけ
苦労したと
思っとるんじゃ！
なだめた!!
すかした!!
やっぱり
敵はあきらめて
なかったって
ことかい…
後手に回った
もんだ…
超甘やかしとる
印象しかないがの
延寿！
延寿
いないのかい！
こんなときに
また女遊びか！


キミには感謝してるんだ
こんな機会が来るなんてさ
残酷です
──全部腐らせて
ただ暇つぶしをする人生で終わる覚悟をしてたよ


仮初と分かっていても
無くなれば「奪われた」と感じてしまうのがニンゲンでしょう
もう一度…
思い通りにならない世界なら
もう一度くらいやってみてもいいかな


また逢ったけど初めまして子ヘビちゃん
とりあえずお友達からはじめるってのはどうだろう
第55話／完


冥界智の主

デスレス
DEATHLESS

第56話 もどらないひとたち




すぴぽー


あふ
パシャ
パシャ
ブゴゴゴゴ
ドテ
ドテ
おはよ
あれ 小さい姐様
早起きなので
ゴハンはもう少し
お待ちありして
おかれますのです


フ〜ッ
ん〜ッ
ムン


ベルルルル
タタタタタ
む…ミズキ殿
起きておるのか…？
ファ
ムク
はて…外？
ぶ～ん



駄目だ
ミズキ殿！
？
おぅ
駄目だと
言うておろ！
てい
あぶ
そんな目で
見ても駄目だ
この
宮森の結界から
出てはならぬ



ミズキ殿が このように 無力化し…
先行きに なんの方策も 立っておらぬ今 この森の 結界が頼りなのだ
それも一度 敵の策略で 無力化されて おる…
…そうだ… この結界の 情報は渡って おるはずだ…
……ならばあの「羅睺の番衆」とやらは なぜ最初から ここをどうにか しない？
？
過去…この結界が つくられる前に 邪魔してしまえば よいのではないのか…


ああ…
そりゃあ「羅睺の番衆」のことを知ったとき最初に考えたよ
やっと話せる
そ…そうか
で？どういう…
ふむ…
あちフー
あちフー
前提からして想定だから断言はできないが…
いまのところ理屈にあう答えとしては…
ツ゛…


この結界は連中がどうこうできるより以前からここにあったんじゃないかってことさ
きょん…
おお…
成る程の
ヤツらは過去から現在を予知しながら過去をいじってるんだろう？
過去
予知
現在
てこた ヤツらのいる過去より昔のことにはヤツらも手を出せないってことじゃあないかって……
unknown
さらに昔
過去
…まあ なんの解決にもならない上に仮説の上に仮説を立てるようなもんだから言わなかったのさ
いや そうか……
さすがミカサ殿だ


吾は
このような
物思いに
慣れて
おらぬでの
なにしろ
このようなことに
行き合うまで…
おのれが何者で
あるかなど
考えたことも
無かった
……ま
悩まないのが
長生きの秘訣って
言うしね
む…
ミズキ殿が
起きそうだ…
ニヤ
お守りも
大変だが
頼むよ
むむ
頼まれた


ヤレヤレ
あ
はー〜
…その鳥はミズキ殿の一部であったものだ
今は…


どうにもならぬ…
……熟々ぞっとするほど無力だ…
先日までのミズキ殿の暴走を心配する状態なぞ…思えば気楽な日々であった
じっとしておらぬの…
む…例の池か…


深さが分からなんだり…
吾の過去を見せたり…
結界の中心…そうか…ここを調べるのも延べになっておったの
とかく得体が知れぬ場所だ ミズキ殿落ちたりせぬよう気をつけ
あ～


ゴロッ
ゴロッ
たッ
……？
なんだ
以前と
様子が
違うの…
床……
地の底なのか？
たーまーえー
それとも…
ミズキ殿の
言っておったような
まやかしか？



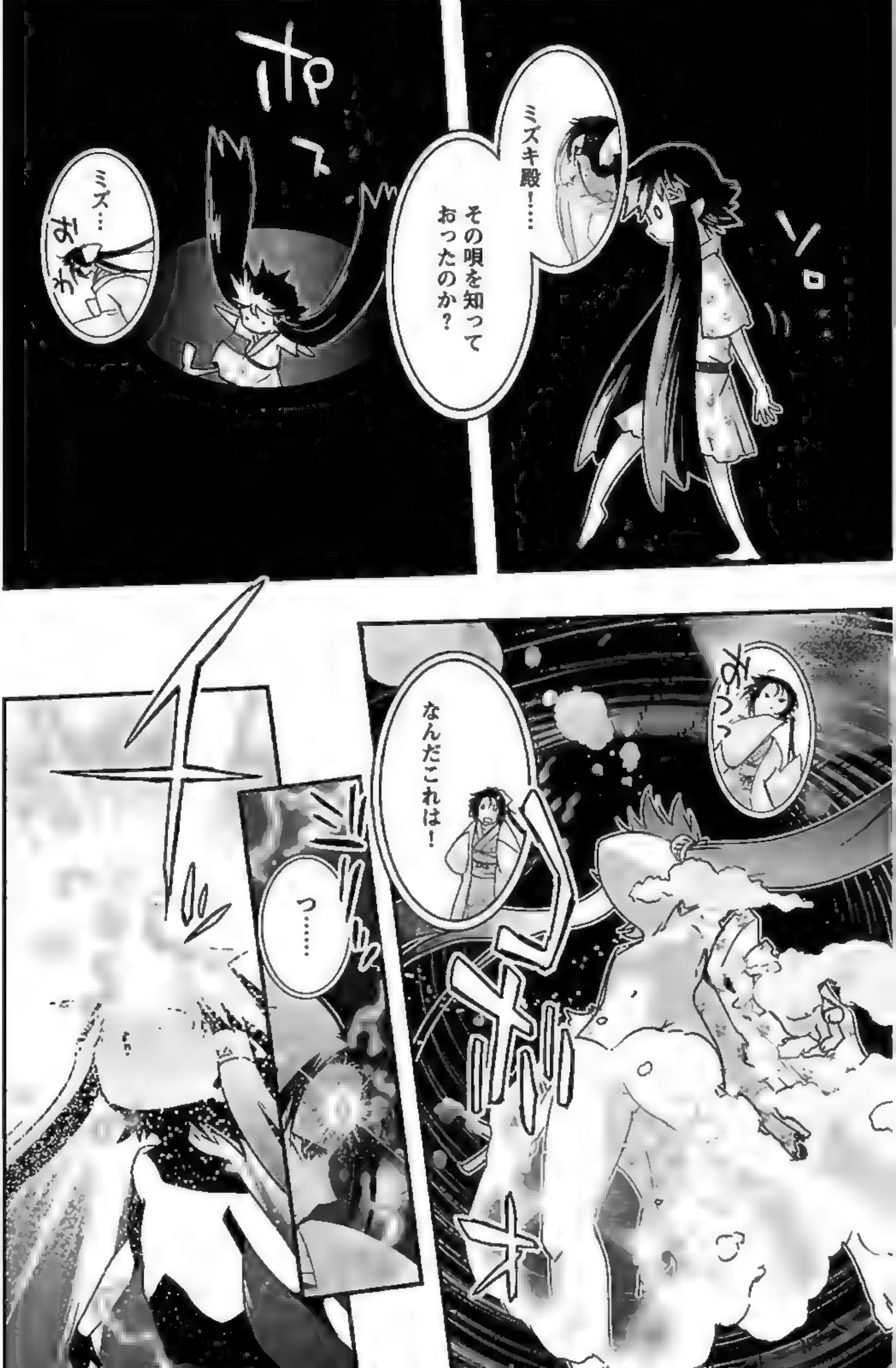
ええい！役に立たぬな吾は…
ところでミズキ殿どこへ行くのだじっとしておらぬ
♪いとよーまどろみたまー
わらべ唄とは無邪気なものだ
幸せそうなのが救いだの
♪ほしふりしみづちなるはあめつちを♪
待て…この唄は…？
たしか…秋葉の持ってきた…
伝承の唄の続き——？
みづちのみやのもりはうたう♪
水土ノ宮ノ守ハウタフ(以下読解不能)


――星降リシ水土ナルハ
天土ノ繭守リシ見エズノ池
水土ノ宮ノ守ハウタフ

繭(マユ)の舟永久(トコシヘ)ヲ夢(ユメ)ムベシ

イトヨウ微睡(マドロ)ミタマヘ

イトヨウ微睡(マドロ)ミタマヘ


ミズキ殿！……
その唄を知って
おったのか？
ミズ…
なんだこれは！
つ……


ギュウウウウ


ミズキ…殿…
大きくなっておらぬか？…
お吾も…あの封印がとけたのか…
治療…のようなものか？…
いや…
「治す」というよりは…
ここは…
「直し」たような…
なんだ？



ミズキ殿…
わかっていて
ここに…
?!
ゴボッ
ぷあ
ザザ
パ
外…
♪



まったく…
もしやこれがやりたかっただけか…？
ヤ
バ
ザザッ
ドッ
うまくはとばぬのだな
池の底はいったい…
そしてミズキ殿の封印を解いてはくれたが…


ニャー!!
元にもどすのは…
やはりムリということなのか…
わざわざ知らせて下さってどうも
いえいえ大丈夫でございますから届け出る程のことでは
本当にご心配なく


延寿が…行方不明？
……て
……数日見かけんことなんざザラじゃろうに
いまさら
どうせどこぞの女んとこじゃ…
こんなもんが届いてね…
…封書？
カサ…


宮森延寿様
ファンクラブ
解散のお知らせ
「このたび
わたくし達の
スゥイートハニー
延寿様たっての
お申し出により
ファンクラブの解散を」
うんぬんかんぬん…
なんっじゃ
こりゃあ…
延寿(あのバカ)のやつが
自分の
ファンクラブに
解散命令を出した
らしいのさ
そんな異様なモンが
あったなんて
初めて知ったわい！
Enju Fan
Enju Fan



んで感心なことに家族(アタシ)のほうにまで挨拶状を回してきたわけさ
「真の愛を御見つけになられた延寿様のお幸せを一同願っております」
だとよ
なんなんじゃ…
延寿の方は「女ができたから愛人全員清算する」って言い草で――
女どもは「身を引きます」って宣言だ
LOVE
アイツにゃもったいない出来た女衆だったのかもしれないね
そうじゃやったか？
ギャー
ギャー
ワシには理解できん…


で…
ここ何日か
延寿を
見なかったろ…
いつものように
フラフラしとるもんと
ばかり思うとった
からな…
どの愛人の
ところにも
いなかったって
ことらしいよ
なんで
そんなことが
わかるんじゃ…
延寿の付き合ってた
連中ってのは…
その時々で
あのバカが誰と
いっしょにいるのか
情報を共有してた
そうだよ
情報網
今日は
あの女の
ハウスね
怖！
なんのためじゃ！
公平に寵愛を
受けるための
システムなんだと
大奥か!!


まさしくそうさ「大奥」で「後宮」だったんだ
アイツぁバカはバカでも「王の目」なんてふざけたモン背負ったバカだ
そんな重荷を背負った自分が女達に依存してしのいでる自覚は持ってた
ソイツが自分を支えてきた「はけ口」を切ったってこた…
なんぞ…
腹を据えよった…か
何日も経って気付くなんざうっかりしてたよ
延寿のことだ…なにか考えがあるのか…
あるいは今度こそ本当に好きにしようとしてるのかもしれないね


延寿が?……
もう一度生きるほどのなにかを見つけ——
いかんいかん!ワシャなにを考えて…!
しかし…ちゅうことはあいつ…!
また若返りよったのか!
あれほどするなと!
間違いないね…
多分カマドさんだろう…


一応カマドさんに確かめといた方がええんじゃないか？
それもムリなのさ…
どうして…
!?
…カマドさんまで
いなくなったじゃと…!?
第56話／完

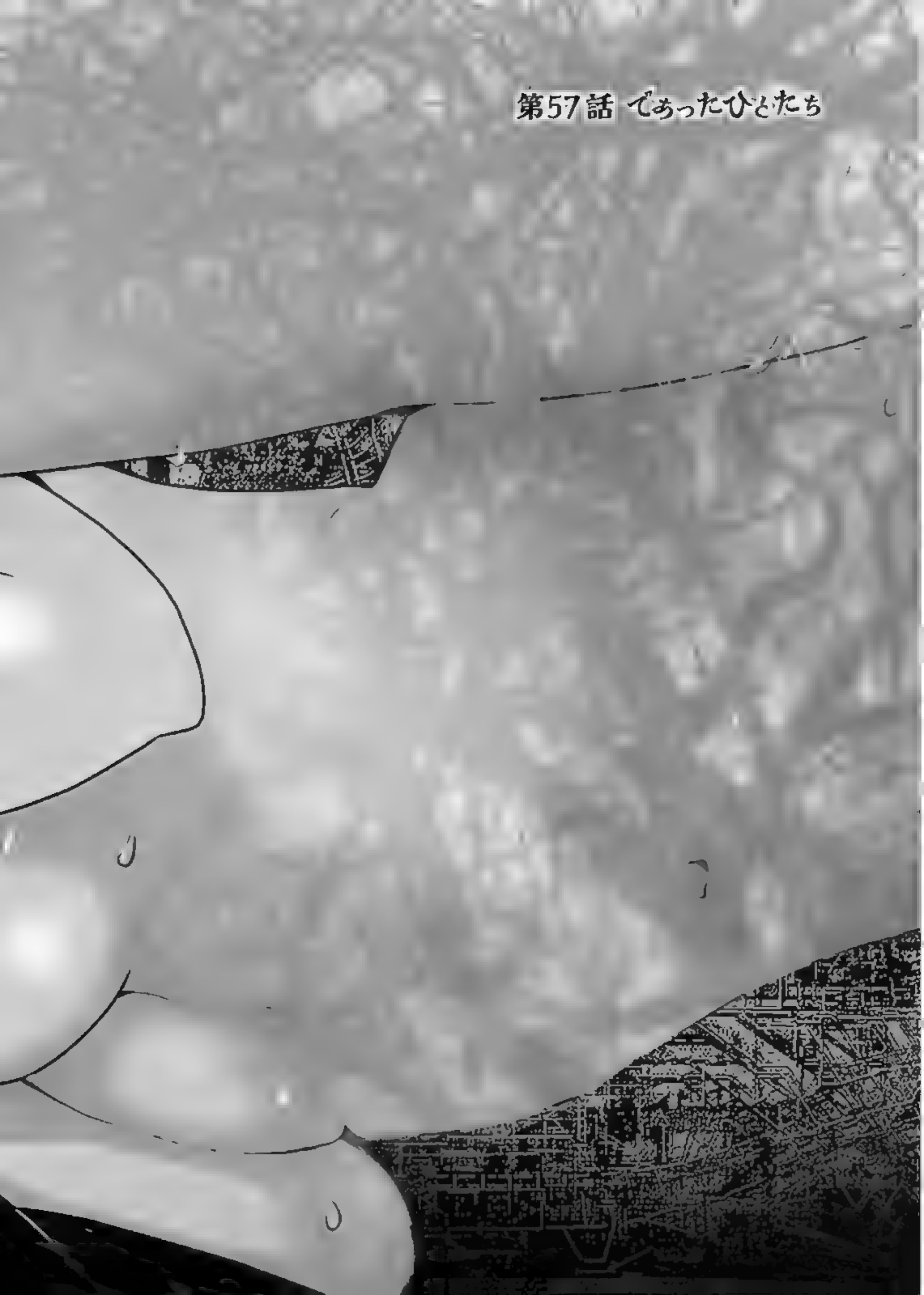
宮森 水城



デスレス

DEATHLESS


かまど


第57話 であったひとたち




あとり…
いまろ…？
ごはんの時間でありましたれ？




道端に買い物籠が？
ああ…
町内会のひとが知らせてくれたのさ
カマドさんは近所じゃそこそこ有名人になってたからね
留学生ちゅうことになっとるんじゃったか
そのへん以前の歴史とどんなふうに帳尻があっとるんじゃろうな
細かいこたいいんだ
フラっとどこかに行った可能性もあるが…
前科があるしな
延寿が消えたのと同じタイミングちゅうのはな…


「敵の」仕業と考えたほうがええか…
「敵」…か
なんじゃ歯切れの悪い
…少し前から違和感は感じてたんだ
アタシ達や…いったい
…なにと闘ってんだろうってね
なにって…
連中…「羅睺の番衆」とかいうヤツらなんじゃろ
…じゃあ質問を変えるよ
「羅睺の番衆」とかってぇヤツらは…


いったいなにと闘ってんだい
ヤツらの狙いはなんなのさ
はあ？
ん…そりゃあ…
あのおかしな宗教の教組をさらったり…
フクウの母親(?)を……
……？
ちとまだるっこしすぎやせんか…？
そうさ


あの「実済智の光」とかいう宗教団体の連中がウチにちょっかいかけてきてた流れで色々あったし…
教祖と一緒に延寿が掠われたせいで巻き込まれて当事者になっちまったが
アタシたちゃてっきり連中の目的は――
ちゅうことは連中の目的は…
ミズキを殺すことじゃ…
ない？


搦め手を使って
ああまでして
直接攻撃できる
機会を作ったのに
今回連中が
ミズキに仕掛けて
きたのは弱体化…
いや
「初期化」って
いうべきか
強大になりすぎた
ミズキをなんとしても
元に戻したかったんだ
つまり…
あの雲水の
干物が言っとった
ような…
われは守護のもの
稀なる異能…
惜しむべき異才を
護るのもの
守られよ
然もなくば


奪わるる前に
銷却(ショウキャク)する
あの余計なお世話か…
今なら意味がわかる
わしらの様な異能力者を
ミズキが取り込んだらどうなるか…
しかし保護できんなら殺すとか大雑把な話じゃ
まったく…山火事を防ぐために辺りの木を全部切り倒すようなもんだ


そう…基本的には大雑把なのさ
未来を予知して過去を変えるってのがどういう現象なのかはわからないが
過去
現在
その「予知」の精度が低いのか…範囲が狭いのか…とかくさほど自在なわけじゃぁないんだろうさ
じゃなきゃアタシらが無事なわけがない
先祖のうち誰かをどうにかすりゃ済む話だ
おおこわ
連中の方針は変わらない
ミズキの力が増大する可能性のあるエサの排除だ
ただ──臭いが違う
明らかに前とはやり方が変わった


連中との間になにかがいる
アタシらのことを理解した上で嫌らしい搦め手を使うような存在が
前のような自動的な罠じゃなく
連中が直接現代に手を出すため送り込んだ刺客が！
オマエの千里眼か？……
勘さ…
ソイツがフクの母親をあんなふうに利用したのか…
おそらく…


そして
カマドさんも…
すか〜
カマドと
延寿殿が？


それでカマドのことを聞きたいとは？
カマドのなにをだ
人柄（ひとがら）とかむかしのこと…なんでもいいんだ
カマドさんが・・・・なにものなのか——
くいしんぼで料理が上手で争いが苦手でマイペースで…
アタシらが知ってるカマドさんてなそんな一通りのことだけさ
立て続けに色々あってそれどころじゃあなかったしのう
カマドさんが大人しくおさんどんに収まっていてくれたもんだから余計にね


あれは――
そう
この国の人間が
髪を結うのを
やめた頃を
折り返しとして…
その倍ほどの
昔だったように思う
江戸の
はじめ頃
くらいかい…
吾はまあ…
少し前まで
そうしておったように
風来の身であった
永き旅の中途
今よりはづぼらで
生きやすい世で
あったわ


「帰らずの山」
「人食いの森」
細かい呼び名は
忘れた
立ち寄った里の者に
そう呼ばれる森が
あった
気まぐれに――
人が立ち入らぬ
ならば気安かろうと
立ち寄った
その森に
あやつがおった


ズズズズ
バチバチッ
ソロ…
バッ
あ
だだだッ
ゴロゴロゴロ
らあッ
ドス
ゴス


?
あやつは今と同じ姿のまま
地の底に埋まっておった



埋まってたってのかい
ムム
ズボ…
うむ
どうやってか木の根と半ば同化しておったな
ズズ
それを通じてたまに周囲を通りがかった人間の時を喰うて凌いでおったようだ
地蜘蛛っぽい…
それから?
うむ
とにかく死んではおらぬようだから叩き起こしてみたのだが…
あ。ふ…


あとり…
いまろ…
?
ポク…
ドッ
!


喰い合いになったのかい
まさしく…泥仕合というのはああいうのをいうのであろ


吾らは互い
同じ性のものに出会うたのは初めてであった
ま…今となっては同じものである保証はないのだが
それで…ツレになったってわけかい？
まあ…好奇心もあったしの
独りの道行きに少々飽いておったのも確かだ
そうか…
いいツレができたわけだ


なにがいいものか
せっかく教えても言葉はデタラメにしか覚えぬ
人の喰い方は躾けることができたがガマンがきかぬものだからしょっちゅう暴発し
居心地の良いねぐらを短期間で捨てねばならぬことしばしば
ギリ
ギリ
何度まいてやろうかと思ったことか…
というか面倒臭くなって何度か置き去りにしたが…すぐに居場所を嗅ぎつけられた
まいたのか!
で…
それ以前のカマドさんのことは…
知らぬ
キッ
役立つ情報は皆無じゃな…



確かに…ここのところの吾の役に立たなさは異常だの
いや…責めとるわけじゃ…
待てこのままでは終わらぬ！
気にしとるのか…
いや…一度だけ
あれは…凶作かなにか…世が荒れておった年であったか…
山道の辻に骸が落ちておった
荒れてんね
童子と思しき骸であったが——ちと不自然での
道端に子供の遺体が落ちとる時点で最高に不自然じゃなあ


喰われた跡があった
ぐえ…
動物が食止した遺体くらい見た事あるさ
違う
違うってなにが
調理の跡があったということだ
……
荒れてんね
それでカマドさんがどうかしたのかい？
うむ
死後さほど時が経っておらなんだし生き返らせて時を喰らってもよかったが


妙に心に残っておるのは――
カマドが食欲を失ったところなど初めて見たからでの…
それで？続きがあるのかい？
うむ…一応の…
その日夜分に抜け出したカマドが――
――ああ、腹をすかせたあやつがつまみ食いに出かけるのは諦めておった――
…そのカマドが明け方になって戻ってきた時


噎（むせ）ぶような血臭


かなり後になって その近辺にあった 外道者の里が 全滅したと伝え聞いた
それだけじゃ なんともねぇ…
貴様らもともと 人食いの化け物 じゃしな
うむ… これはただ 一度のみ 吾が違和感を 感じたという だけの話だ…
だが あんたらの 食事は——
吾らの食事に 流血は無い
だから覚えた… あの一度のあの——
濃く生々しい 生命の残り香を


カマドは出合うた時から吾と似たいきものの臭いのせぬなにかであったが…
ただ一度あのときだけは…人食いの化け物ではなく
あれはいきものの放つ憤怒のにおいではなかったか
カマドと憤怒という取り合わせがあまりにそぐわぬので…なにかの勘違いかとも思うたが
…とにかく


カマドさんの事はよくわかないってことだね
うむ…役に立てぬ
カマドは殺されたであろうかの
いや…カマドさんが消えたカンジはないね…
わかるのか？
い・る・かい・な・いかくらいは…なんとなくね
いや…実は若返っても・・・アタシらに関する予知は見えづらいんだが
？
最近この・・・・線引きに気付いたんだよ…
アタシら一度時を喰われた者――っていうか
「歴史を越えた者」に関わる予知がひどく・・・見えづらいってことにね


だから思うのさ…
連中もそうなんじゃないかって
…？それはどういう…
まあ今はいい…あくまで仮定の話さね
で？敵はどこだ カマドはどこにおる
さて…多少若返って調べてみなきゃいけないだろうが…
多分…
こりゃアタシの勘だがね
おそらくカマドさんも敵にまわるよ
第57話／完

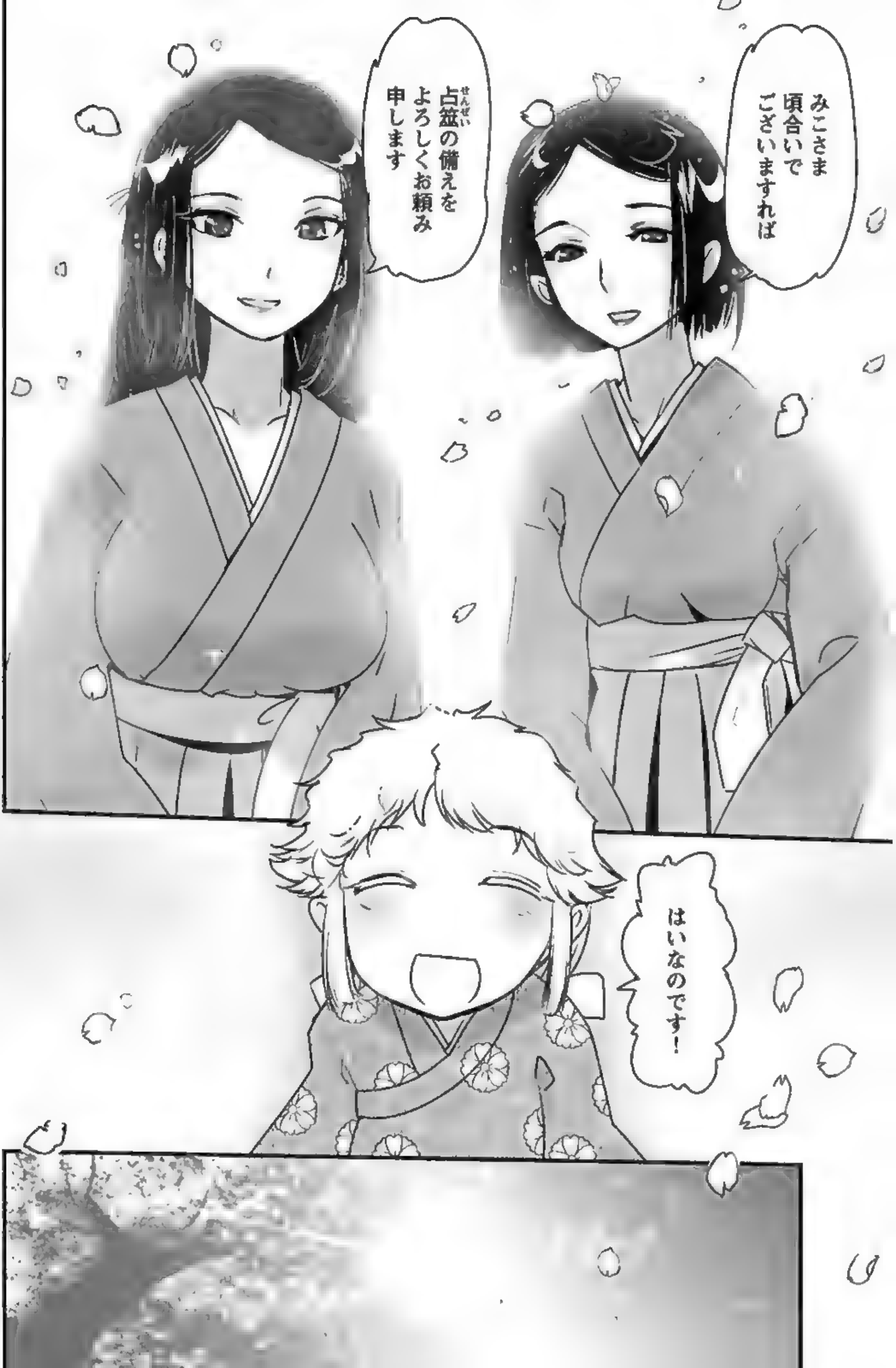


デスレス
DEATHLESS


第58話 ころがるひとたち


……みこさま――


みこさま！
あとり！
いまろ！


みこさま頃合いでございますれば
占筮の備えをよろしくお頼み申します
はいなのです！


ゴポッ…



へえ…
こりゃまた日本史だ
君ってもともとは人間だったんだ
君らみんなが・・そうなのかな？


これが君のもとの？……
…いや少し違うな
白子…
狐の子
鬼の子
異能
それに人間といっても普通じゃあなかったみたいだね
君もボクらと同じ「才能」の持ち主だったんだ
じゃあ幸せになるのは難しかっただろう？


君の「才能」は…
「死」の感知か
ミカサの千里眼と似た風に感じるけど…
生ではなく死を占う…と
なるほど権力者の周りの「死」を関知すれば上手に立ち回ることもできるだろう
自然死を呪殺って偽ったりね
それを当時の技術官僚に利用されていたってこと？
あるいはギブアンドテイクだったのかな


そしてあるとき
そのきっかけが
起こる
みな
死ぬる
あ
「飢饉」
とかって
ヤツかな？
歴史だなぁ
悴かみて死ぬる
食物絶えて
術なく饑く
候ままに死ぬる


死ぬる
死ぬる
死ぬる
君は
大勢の死の臭いに
びっくりしちゃった
わけだ
鴉取！
新麻呂！
怖い！
まあ
みこさま
どうなされました
みこさま
そして
びっくりして
過敏になった
君の感覚の中に
不思議な臭いが
飛び込んできた


異質な何かの
「死」
あーあ もうちょっとくらい いいじゃない
せっかく浸ってたのに
せっかちな子だな


ボクの可愛い子ヘビちゃん


今度はカマド君を
なにに仕立てようって
いうのさ
クックックッ
こういうやり方
キライじゃないけどね


いやいやいやいやいや！
うわー
乙金…
裏切り者の分際でー


あるじ様に何をするだァ――ッ！
敵地に居候してた子が裏切り者とか
よくここについてこれたよねキミ
は！私は鼻が利くし空気も読めるのです！
アナタが怪しい動きをしていたことくらい超察知してましたよ！
うん
キミに・・・つけられた自分に傷つくなー
ジャマだから帰らない？
まあ直裁な物言いッ



アナタのような
裏切り者の
貧弱な坊やと違って
わたくしは最初から
あるじ様のしもべ
なのですよ！
いっしょにしないで
今の子ヘビちゃんに
君のような寄坐(よりまし)は
必要無いんだけどね
Yaー！
ノノノノ
便利ですよー
私と教団の生き残りは
分散していた
財産のうち何割かは
「時間の改変」によって
消滅しましたが…
それなりの
経済力は残って
いますし
チャリィンー！
お金ならボクも
持ってるよ？
おや意外で
そんな風には
見えません
でしたが


家の連中にはナイショだしね
いらないっていってんのに
勝手に保険の受取人にされたり相続人にされたり色々
ひくわ—
なかなか淫水のしみてそうなお金ですね
しかしなにより我々はあるじ様のためなら死ねますし殺せますよ？
「銭」より「忠」ですよ！
何犬伝だよ
うわ


申し訳ありません 足をお舐めさせ下さい あるじ様
ドゲザッ
キミの謝罪の理屈はおかしい
なにかが
みておる


は・・・
今度は15・6歳ってとこかい…


モゾ
モゾ
どういう理屈なんだい
吾にもさっぱりだ
昔の服をとっておってよかったわい
能力的なことの回復はしておるようだが…中身のほうは相変わらずだしの
そうかい…
あるいはあたしらの知っているあの子は…
もう…
気休めは言いたくないが…


ちょっとどうなるがわかんないからあとよろしくね
あのとき…ミズキ殿にはなにか手があるような様子であった
ま…ミズキ殿のことだからあまりアテにもな
まあ…ね
天
それより…例の地下の石室にまた行ったんだね
うむ…
地下かどうかすら定かでないが…
裏の池を・・・つたって…



またミズキが童歌を歌い
よくわからぬちからの充填をうけて
その有様かい
もはや科学やら魔法やら根拠の無い推測をしても意味が無い
そこは一種の「病院」だとでも思うかね
病院…というより修理工房のようなおもむきであったがの
そして今回は妙な「夢」を見たのだ
夢？
延寿殿がいた
そいつぁ悪夢だ



延寿殿は今のミズキ殿くらいのなりをして――
うわ…アイツが最悪な頃じゃないか
「敵」と同じ場所にいた
「敵」…
おそらくフクウの相方をけしかけたヤツであろ
…そこにカマドが捕らわれておって…
よくわからぬがあの乙金まで集っておった
見かけないと思ったら
真っ暗などこぞに役者そろい踏みで愉快な陰謀の宴を開いておったわ
……そいつぁリアルな夢だ


ほんとに夢ってわけにはいかないかねぇ…
いくまいなぁ
フクウの相方の時も敵に操られた理屈は分からないんだが…
一種の洗脳みたいなもんかね
なにやらそのような処理を受けていた様をミズキ殿を介してみた覚えはある
聞くが
カマドさんて強いのかい
さて
吾が出会うて以来あれが争うておるのを見た事がないゆえなんとも
未知数かい…

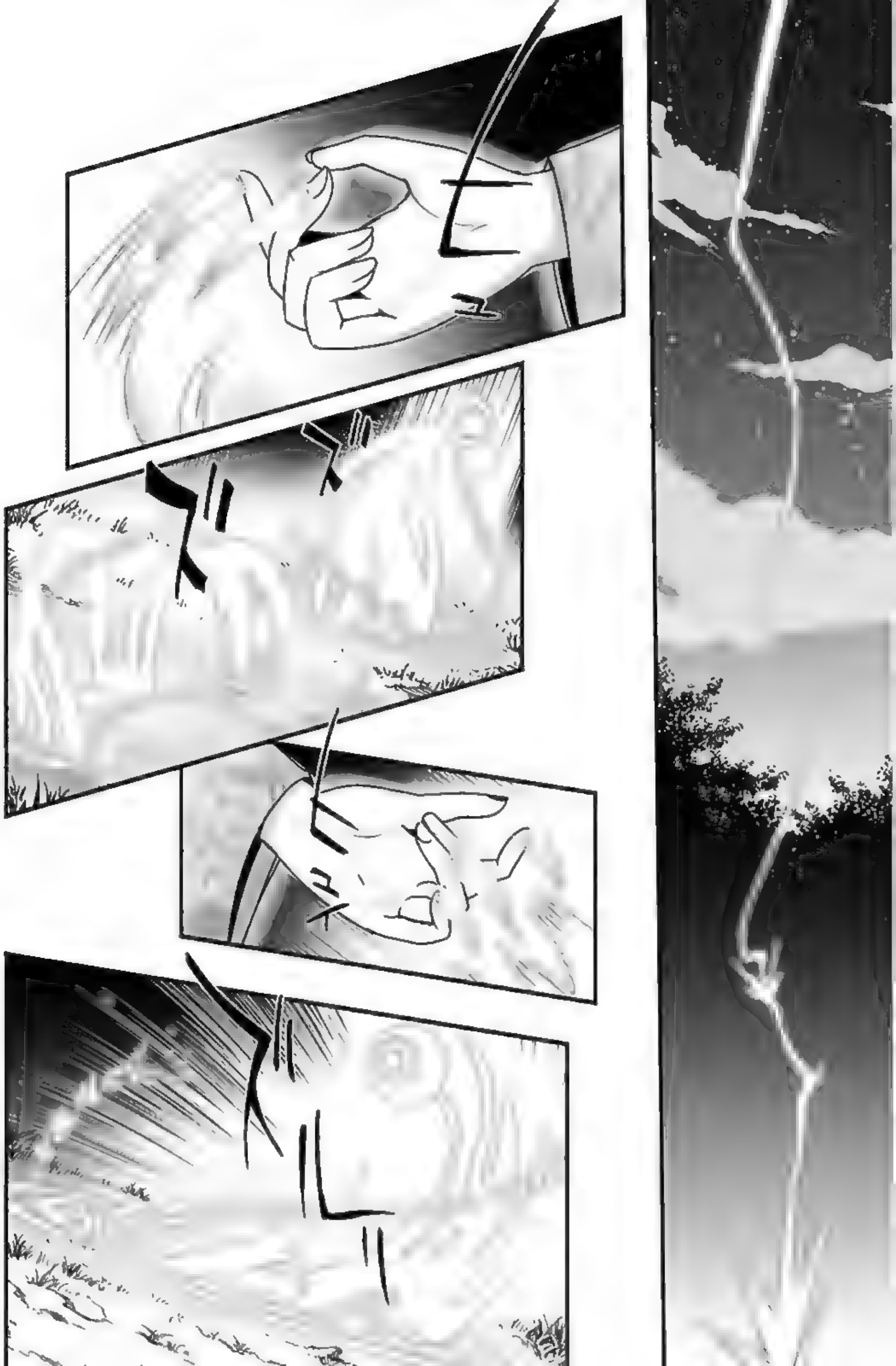

ミズキを表に立たせられない以上…こちらの戦力はムサシとアタシくらいか…
前回みたいな奥の手は使えない…と
勝てるかね
さて…
勝敗の条件はなんなのだろう？
おそらく敵の目的はミズキの無力化だ
そしてミズキに力を与える可能性のあるものの排除



こちらの身内を使うのはミズキに余計な力を与えないようにするためだろう
こいつぁおそらく兵糧攻めなのさ
当座の勝利条件はカマドさんの奪還もしくは撃退
敗北条件は…ミズキとスザクさんだけの巻き返し不可能なジリ貧状態になることだ

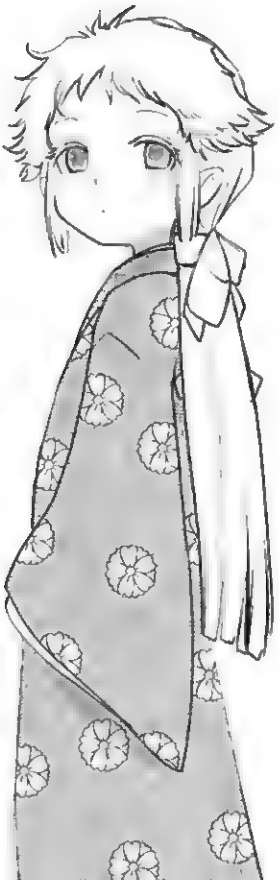


勝っても当座…か
ゥッ
厳しいの
ちなみにカマドさんと闘うのに抵抗はないのかい？
あやつも吾も永の旅人
明日果てるも百年後に果てるも同じ同士だ
一度はガツンといわそうと思っておったしの
そ〜かい
ま…とかく今までと違ってマズいのは…
立てこもりが効かないことだね
ケンカのニオイじゃ
カマドさんはウチの結界を通過済みだ
いつでも奇襲される可能性があるってことだ




…あとり
——いまろ…
——みこさま……


お腹が空きましたので
ありました
なのです
オオオオ
第58話/完

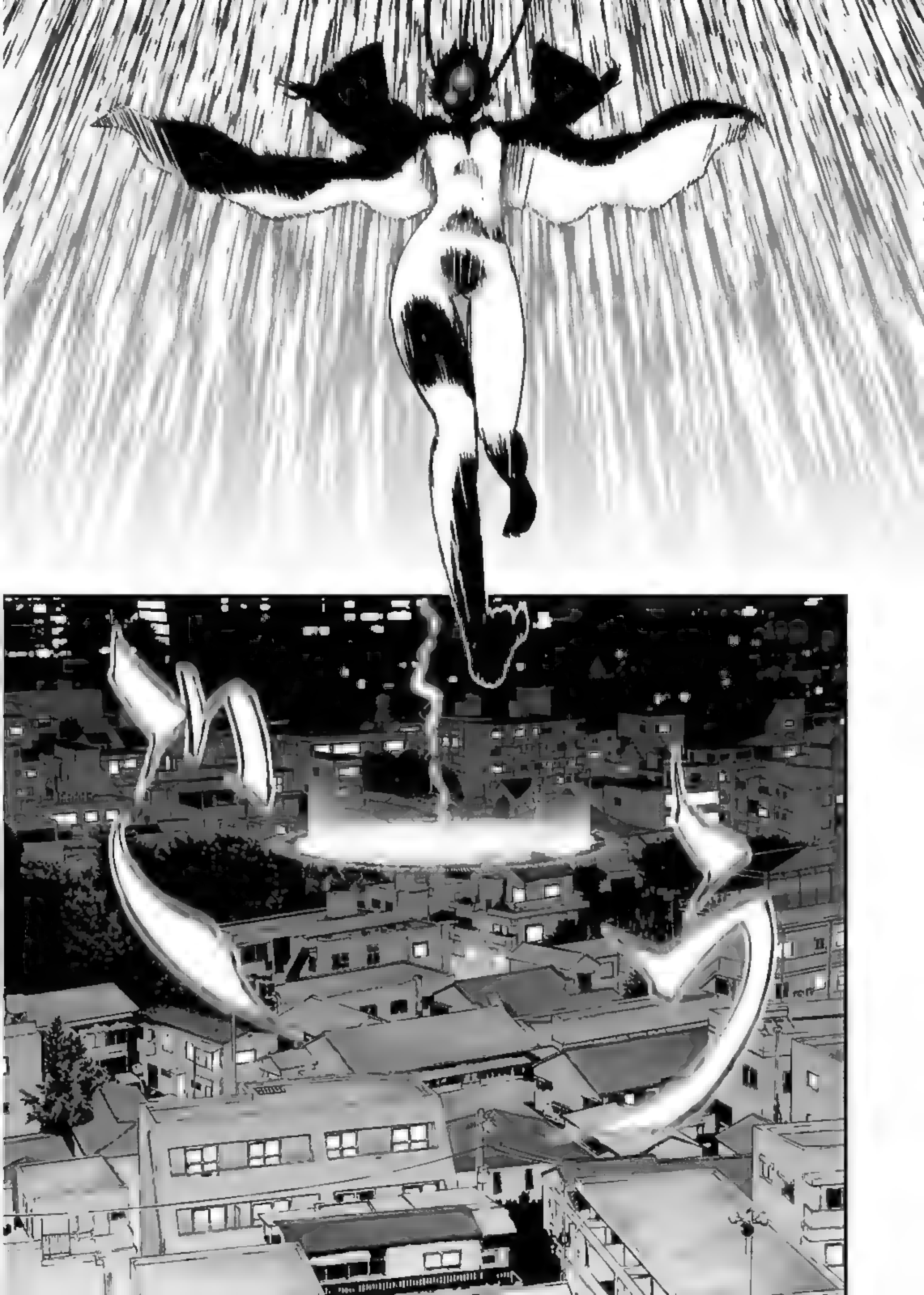


厭離

ENRI

デスレス

DEATHLESS





課長 らいりょーぶっすか
ガッハッハッハッ
ヒック
ああ…
おっ
しりイ〜〜〜!?
か……
課長! 課長! 尻でしゅよ!
ヒック
あ〜?
だから女の尻れす!
ヒック…
なんだね尻尻と… きみゃあ西村寿行か
なんすか課長はおっぱいの星のひとっすか


ぼかぁね
女はかかと…
おっ…
かかとォ？
かかとって
踵っすか
課長深ッ…
あれぇ？
課長
手品っすかぁ
あれ
尻が帰る…
ズ!!
ズ!!
ズ!!



第59話 つぼのなかのひとたち




NEWS ROOM
昨夜未明より
謎の集団行方不明
――近隣の住民や親族などの問い合わせで同地区の住人が集団で行方不明になっている可能性が
――なんらかの犯罪かテロの可能性も視野に入れ原因を調査中で――
LIVE
TTV
岡県博多区
orts the latest news for 2
is a news speci
こりゃさすがに…
世間が騒ぐぞ
あれは大食らいだからの
また現われたよ


カマドか？
ああ…近いね…
隣の街じゃ…


…まただ…
消えた…
存在を感じなくなるってなぁどういうことだ
まえの…不二のときもそうだったがやつらどこに消えてる?
…そもそもミカサ殿は何を探知しておるのだ
気配みたいなものか?
ん?
──そうだね…
棒を倒して方向を見たりこういうモノで場所を指したり…
時になにかを感じるわけじゃあなくて…自動的にわかるっていうか
……
では以前やったムサシ殿との連携というのはどういうものだったのだ
ありゃあ…



例えばアタシの視界内なら――
ちっと気張れば
ムサシのまわりの前後数秒が同時に見える
それを見ながらいける数秒後を選んで指示してたかんじだね
?
過去も未来も見えている…
「選ぶ」…?
………
なにか気になるのかい?
いや…
ミカサ殿の能力は
「予知」でも「探知」でもないのではないか



ま
もはや検めておる暇もなし
ホゥ・・・
ちと…な…
そう思った契機はなんであったか——
宮森の者の能力は——
面に見えるものとは違うのではないか



黒幕の居場所がわかればまだ対処の幅も拡がるんだが…
もう少しだけ若返るか…
やめんか
既にお前ギリじゃろ
敵はミカサ殿の能力への対処も可能か…
延寿殿もそこにいるということであろうな
あのバカったれが…何を考えとるんだか
…とにかくカマドさんの戦力は未知数
こっちの直接的な戦力はムサシとフクウだけさ
お前はムリせんでいいんじゃぞ


守りに徹するなぁ
疲れるもんだね
ケンカは
主導権じゃからな
畜生!
畜生!
化け物同士で
勝手に殺し
合ってろ!
ニンゲンを
巻き込むな!
…ハラぁ
据えなって
ふんっ
クックッ
オマエも儂も
関わるべくして
かかわったのさ
こりゃあ
そ・う・い・う
流れだぜ


みこさま…
ここはいずこで
ありましょう…
みこさま
御身に障りなど
ございませぬか


ズル…
ズル…
ズルーゥ…
ズルル
す…
助けよや…！
ひ…
ひく


あとり！
いまろ！


ひっ
ひぐ
みこさま！
お下がりくださいませ！
浴びるような
死
死


「死」を感知する
彼女にとって
そこは――
充ち満ちた
終焉
ひっ
ひいい
ひっ…
それは
ある存在の
「死」から
始まった
（その存在を仮に
「前任者」と呼称する）
永い時を経て
その性能を失った
「前任者」の「死」
――あるいは
「故障」か「風化」と
いっていい
ものだったのかも
しれない――が
彼女の…
カマド（？）の
運命を変えた



前任者が
管理していた
その「場所」が
前任者の
代わりを
求めたのだ
求めた条件は
単純明快
オオオオ…
ドドド
びく
びく
強く頑丈な…
ハッ
ハッ
「異能力者」


高温で金属を鋳溶かす為の壺を
「かんか」と呼ぶ
…彼女達は「かんか」に墜とされた
鋳鉄


ゲホッ
坩堝…つまり
「坩堝」
その「場所」
思考を持つその「坩堝」は
異形や異能や異種や異怪を
封じ込めて鋳溶かし続けた


きりのない「死の気配」が収まった頃には――
ヒュー
ヒュー
彼女は壊れる寸前だった
ヒュー
いまろ…
みこさま…
…あとりは？
食物を求めてはづしております
みこさま…
どうぞこちらを召し上がりくださいませ
御身がもちませぬ
いまろは？
クス
われらもたべまする



そう…か…
かた…じけなし…
クシャ
モグ…
コクン…
幾日たっても
坩堝は閉じたままだった
死の気配はもうない
みこさま…
どうぞ…召し上がりください
モグ
何卒…
幾日も
何卒…
幾日も
何卒…


だれかが
しんだ


どうぞ…召し上がりください
何卒…
彼女らのすべてによって
生き残り
選ばれた


坩堝(るつぼ)の目的はただひとつ
「前任者」の代わり
新たな存在の核となる
最後のひとつを決めること


絶対的な
護人(もりびと)によって
彼女は生き残り
新しい存在の
土台となった
材料は
集められた
異形たち
「前任者」と同じく
長期間の任務に
耐えうる強靭な
存在になるはずだった

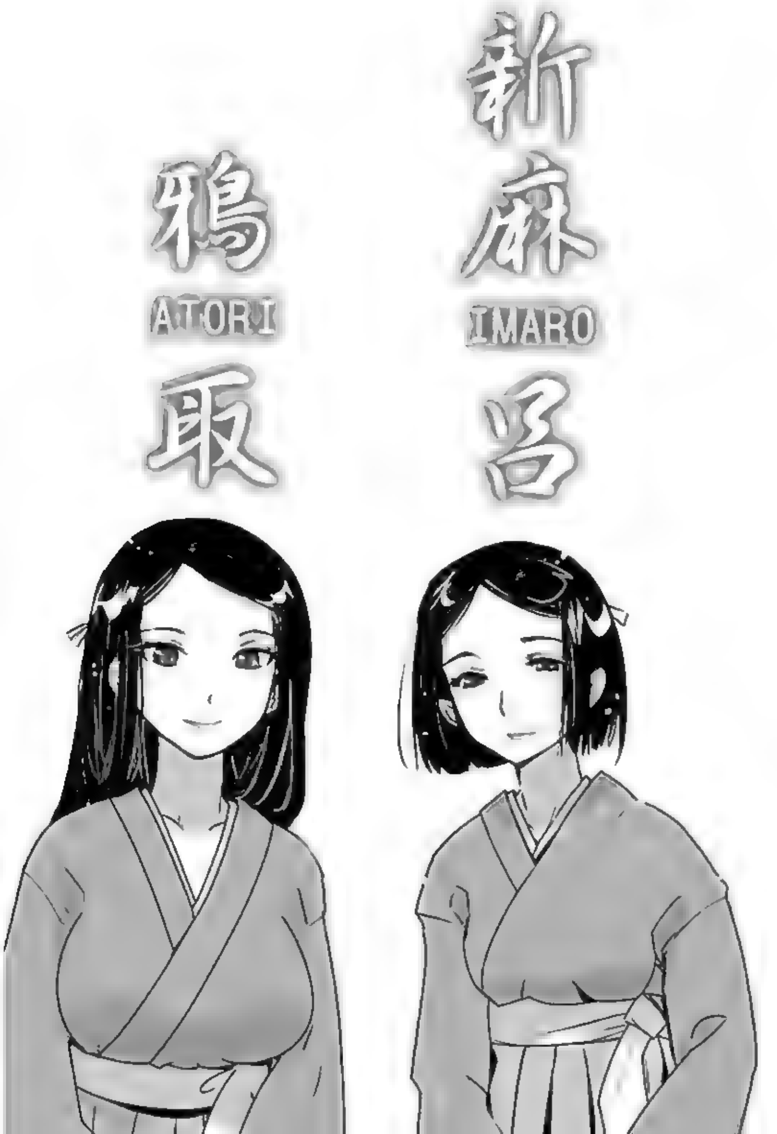

間違いは
彼女が
「強いから
生き残った」のでは
なかったこと
彼女に
中心核になる
強さはなく
土台は
砕け――


異形の坩堝が
冷え固まった
歪な竈に――


もう一度強引に
火をくべるなんて
哀れだね
でもそっか
キミは中に
いっぱいい
いたんだね
クイ
ズズ…
ズ
殺すので
ありて
します
おー怖
キミのご飯
美味しかったのに
インケンな
やり口素敵ぃ
どんな記憶を
上書きしたんだか
カマドさん
楽しい？
はい


あとりを
いまろを
みこさまを
ころした
宮の守を
クス
食べるので
クス
クス
ありまして
しまうのです
クス
……
僕まで
食べられないように
しといてね
ゴゴゴゴ
ぼくも
みやのもりなの
チッ
喰われて
しまえば
いいのに

第59話/完


新麻呂
IMARO
鴉取
ATORI

デスレス
DEATHLESS


ポ
ピ
ン
ン
こんにちはー
…延寿の使いじゃと？
アタシ延寿(エンジュ)様の使いで参りましたぁ
はい！メッセンジャーです！


なお
このメッセンジャーは
自動的に消滅しまぁす！
おわぁ!!
はッ
あら？
涅槃は？
なにが
涅槃じゃ
ウ～


延寿サマの言ったとおりだ～
キレてなーい
おい…
こんなことを延寿にやれと言われたのか！
ううんー延寿サマは「ムダだから」そういうのいいって言ってたんだけどぉ…
ま…ムダじゃが…あの外道…
手榴弾で自爆するとかド派手なデコ死提案したのにぃ
あ「デコ死」ってちょっとウケてました！
デコレーション
でも「いいから」って微笑まれちゃって
もう死んでもいいって思っちゃった
やかましい
…で伝言ってなんじゃ…
あーアタシ大事なお使い忘れたまま死んじゃうトコだったー


では改めて延寿様よりご伝言
「好きなひとが、できました」
「生まれてきてよかった。」——だそうです
色恋沙汰で家出とか何歳じゃあの莫迦！
ああ…延寿様に「好き」とか言われたぁい
チッ
言われたらきっと死んじゃう
あいつ昔からこのタイプ入れ食いじゃな
伝言って手紙か電話じゃダメなのか


それで あのバカは
何処でなにを
しとるんじゃ
ええと…
一字一句間違えずに
伝えるようにって…
あ思い出した
「僕の愛が
奇跡を呼んだ」
「トンネルのむこうは、
不思議空間でした。」
「敵になっても、
いいんじゃないッ？」
「寝返ったりも
したけれど
僕はげんきです。」
「――生きねば。」
やかましい
もうえええわい！
帰れ!!
聞いちゃおったが
本気で
寝返っとったのか
あのバカ
それと――
まだあるのか！




第60話 はめられるひとたち



集団行方不明は
その範囲を
広げており
依然原因は
不明のまま
――
近隣では住人が
避難するなどの
パニックが――
もはや
おおごとに
なっとるなあ
隠す気もない
ちゅうことか
テリリリン
――
もしもし
宮森です
あれ…んと
ミカサ…
ばーちゃん？
松川さんかい
細かいこた
省いて
聞きたいんすけど
あの
集団行方不明の範囲――


どーやらウチに近付いてるみたいなんすよね
「オレが人質として利用されてる」
「何百人も巻き込みながら」？
そりゃ…
違いますか
…違わない
オレが誰もいない山ん中に逃げ込むとかしたら被害減ると思いますか
追いかけてくる被害範囲が伸びるだけだろうね
例えばオレが早く片付いても今度は大町んとこに行くだけでしょうね
可能性は否定しないよ
NEXT


…家族は適当に言いくるめてオヤジんとこに行かせました
ジタバタしないで待ってますんでテキトーに頼んます
ミズキが元に戻ったら頑張れって伝えて下さい
そいじゃ失礼します
……
そうか状況を理解してその振る舞いとは松川殿もたいがいだの
…どんな大物だいあの子は
?



信頼されたもんだ
しかし…
カマドならば結界を通れようしてっきり殴り込んでくるものと思ったが
ピコ ピコ
人質で誘い出すとはなかなか陰険だの
後ろに陰険なヤツがいるんだろうさ
ミズキ殿がこの有様でなければ暴走しておったろうの
ま…アタシらだってほっとくわけにはいかないしね
しかし延寿殿が敵の狙いを知らせてきたのだろう？
寝返っておいてそんな真似をして大丈夫なのか延寿殿は
ふふ……
伝言役
ドーイ


テキにこっちの人間関係の情報流してんのも延寿(あのバカ)さね
いいんだよ あのバカ ガチ殺し決定だ
延寿殿の度しがたいところは わざわざそこまで知らせてくるところだの
「ボクらのこと いっぱい おしえちゃったー」
ガンバ！
…わかってんだよ 延寿(アイツ)ぁ
アタシらに「殺す気」でかかってきてほしいのさ
…歪んでおるの
それと スザクさん


NEWS ROOM
昨夜未明
謎の
話のついでに確認しとくが…
アタシらは容赦する気はない
なにがしかの強要を受けたにせよ…これだけの惨状じゃあね
悪いがカマドさんを「殺す気で」やるよ
道理だの
吾とてカマドが牙を向けてくるならば容赦はせぬ
あれとの間にそういう仲間意識はない
そうだの…永き旅の同道(みちづれ)としては
吾の手でとどめをさしてやりたいくらいか
——だが吾がこの有様ではな
あと 知ってりゃ聞かせとくれ


あんたたちの
殺し方をさ
殺す…
死ぬ…？


前にも言うたが吾は
カマド以外の「同類」と
出会うたことはなかった
まして
殺しおうたことも
ああ…しかし
考えなくちゃぁ
いけないんだ
今までは
ミズキっていう
「出鱈目」のせいで
うやむやになってたが
殺すことが
できるのかい？
…わからぬ
考えた事も
なかったが
抑々…「死」とは
どういうことだ
「消える」とは
違うのか？
ん…
実を言うと深いとこは
アタシらの辞書にも
載ってないのさ
――まして…
老化や病気がもたらす
生き物としての「死」
忘却がもたらす
意味としての「死」
まして
アタシらは
その言葉の意味が
揺らぐとこを
見ちまったしね


その「時」ってのが曖昧なんだ
スザクさんらにとって「時」を喰うってどういうことかもう一度確かめていいかい
と言われてもの…
ん…昔誰ぞに説明したおりに辿り着いた「喩え」があったはずだが…
おお思い出した
「撥条」のようなものだ
「撥条」？
吾は
人の「時」を喰らうことで己を動かす撥条を巻くことができる
吾の撥条をほどくのとひきかえに人の「時」を巻き戻すこともできる


吾の中の「撥条（ゼンマイ）」を一気にほどいて素早く動くこともできるが――
「撥条（ゼンマイ）」がほどけきってしまえば力を失う
そりゃあ…
今まで聞いた中じゃ一番わかりやすい例えだが…
……
なんだ…この印象は…
「撥条（ゼンマイ）」って言葉の印象からってだけじゃあない
理屈ばった…
まるで…「装置（からくり）」のようなイメージは…気のせいか
それと「撥条（ゼンマイ）」に喩えたのは「ある程度以上は巻けぬ」という意味合いが大きい
ギチチチ
MAX


吾や…フクウなどもそうだったようだが一定以上は時を喰うことができぬ
前にも言ってたね
「カマドさんは大食らい」——って
うむ…だが
あれが満腹になったのを見た事がないというだけのことだ
人肌で寝てしまう体質ゆえ分かりづらかったのだが…
とかくカマドを討つなら…
まずはこの人肌で寝入る性分が残っておるかどうかが肝要だ
であればなんとか眠らせ——
フクウと吾で出来うる限りの「時」を奪って無力化すれば——
難しいね



人肌か…
試しちゃみるが…
町ひとつ――
喰ってることから
考えても
楽観は難しいね
それと
カマドさんにゃ
アタシとムサシと
フクウであたるよ
ポン
ポン
!
あとの無い状況だ
出し惜しみをしても
しかたないのではないか?
スザクさんには
「池の底」を
調べてほしいんだ
ミズキは本当に…
もう元には
戻らないのか


躰(カラダ)は…
ほぼ…
元通りか…


だが
元より…
吾らの未来がどうなればよかったのかわからぬ…
だが…少なくとも
このような腹立たしい行き止まりなどつまらぬ！
認めぬ！


なんとかならぬのか！
ミズキ殿！
刀まで鳴いとる
わかりやすいのう…


この殺気の濃さは…質の弱いモンは死にかねんぞ
ズ
・・・・あてられて人っ子1人近付かないのが幸いだね
ズ
ズ
こんな殺気の主が…
あんな穏やかなメシを作っとったのか…
アタシの推量じゃスザクさんで最低5・600年…カマドさんはそれ以上生きてる可能性がある
丸くも硬くもなるだろうさ
来るよ…!


最初から全開でいくよ！
おう！
フク！切っ先の範囲に近付くな！
5…
6…7
？
…カマドさん以外にも何か……



10……11……
ゴゴゴ
前に見た「式鬼」か!?
……………!?
ゴゴ
ゴゴ
あ……


地球は回るのですー♪
延寿様のたーめにー♪
〜ふ〜ふ
お姉様申し訳ありません
ふふふっ
裏切るって淫らなかんじで興奮するのです




ゴボォォォ
ゾリィアァ…
ギィィィ
…見た事のない状況だ
吾の言葉に反応した…わけではないようだが…


これは…
警告？…
もしや常ならざる事態ということか？
分断されたということか…
こうなれば結界が頼み…



第60話／完




次巻予告
宮森家
浸食



デスレス第九巻
・製作
六道神士
・作画補助
木林田 ウナム
たけぽんG
春夏秋冬 鈴
・担当編集
筆谷芳行
(順不同・敬称略)

少年画報社
http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

9

六道神士